



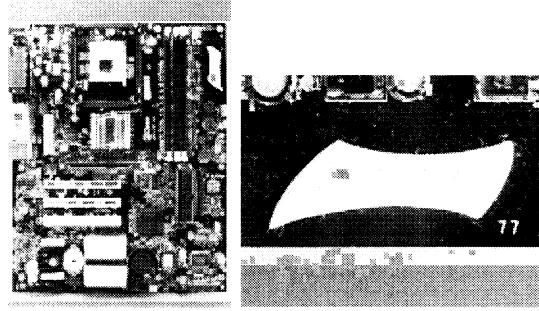
楓ノ木隆のPC実験室輩

真空管アンプ搭載マザー「AOpen AX4B533-TUBE」を試す

今年6月のCOMPUTEX TAIPEIでAOpenのブースに展示され、その発想の奇抜さで話題を集めたのが「AX4B-533 Tube」である。一見通常のアンプに見えるが、オーディオのアナログ出力に真空管を利用したアンプ搭載するという、非常に「アナログ」なマザーボードである。その効果はいかはどなものか、という事で早速ためしてみた。

書マザーボード上に真空管アンプを実装

AOpenから登場したAX4B-533地は、同社製品であるAX4B-533(日本では未発売)をベースとし、サウンド出力部に真空管アンプを搭載したPentium 4/Celeron向けマザーボードである。真空管を使ったオーディオアンプといえば、懐かしさを覚える読者もおられるだろうが、広く普及した半導体アンプや、最近主流のデジタルアンプには無い「味」を求めて、今も一部のオーディオマニアの間では使われているし、そうした層を狙った製品や組み立てキットも今なお存在している。本製品では、PCIスロット3本とCNRスロットをAX4B-533から取り除き、空いた場所に真空管アンプを実装。AC 97 Codecのオーディオ出力をここに直結することで、「味のある音声出力」ができるることをウリとしている。



AOpenのAX4B-533 Tube。上部3分の2を見れば普通のATXマザーだが、下部がちょっと異様な光景 デジタルとアナログの融合を成功させたことを示す「Tube Sound TECHNOLOGY」のエンブレム

監追記Iff. 飾に二三＼ /フ上泊漕主音がシurn ナ1/ 、小で6T>るt: >い滝己範頼掛りましたが、読首告言壺圧番ii持}ホ-・. 予告損寺イこい こい") 艷 雨'鼎¥}ました封、で削除いたし表したハ

なお、本製品は現在では入手がかなり困難となっている。それもそのはずで、本製品はAOpenの直販